

14000の団結は脅威! 3/19~20 破壊「オルグ」粉碎に完勝

「執行権停止」を満腔の怒りをこめて弾劾する

全組合員の皆さん。

一九・二〇日、二日間におわたる、千葉地本破壊「オルグ」粉碎闘争決起、大変御苦勞様でした。まずなによりも、革マルとそれに追いつく一部反動分子によって牛耳られた「中央本部」による千葉地本破壊攻撃を、地本一支部、一四〇〇名組合員の鉄のごとき団結と怒りの総攻撃をもって、ものの見事に粉碎し、勝利したことをガッチリと確認しよう。動労大改革運動の勝利の展望は鮮やかに照らされたのだ。勇気と確信をもって三月後半の総力戦を闘い抜こう。

▲全支部で19・20破壊「オルグ」を粉碎▼

一九・二〇日の「オルグ」の実態はどうであったのか。あまりにも、理不尽な反動的行為であるがゆえに地本内一支部・一四〇〇名組合員の怒りを倍化させ、「オルグ」なるものは、完全に拒否された。これは当然のことである。

千葉地本を否定し、千葉地本を破壊せんとする本音を隠して、いかに甘言をろうしようとも、一四〇〇名組合員は決してだまされはしない。

現に、「オルグ」なるものは、わが組合員による、この間の「中央本部」そして革マルとそれに追いつく一部反動分子による数々の悪業に対する追及に対し、一言も答えられず、スゴゴと引き返していったではないか。また新幹線の宮本君(地本執行委員)にいたっては、わが組合員の追及にあつて「津山大会では暴力があった」と認め顔を青ざめほうほうの体で帰ってしまったではないか。

かくして、一四〇〇名組合員の団結した闘いの迫力に恐れをなして、千葉運転区支部では、「組合破壊者集団」の本性をさらけ出した。庁舎前の組合掲示、ビラをはがし、立看板を壊して燃やすというまさに、権力、当局ですらできない反動的暴挙を働いたのである。これが「オルグ」の実態でありまさに千葉地本破壊・排除、動労分裂を策す実証である。

▲動労再生の道は切り開かれた▼

一九・二〇日の破壊「オルグ」の粉碎のなかで、鮮明にされたことは以下の通りである。

①、千葉地本一四〇〇名組合員の団結力は不滅であり、いかなる暴力的脅迫、甘言をもってしても壊すことはできないということ。それは、三二回臨大で確認した▲闘う四つの方針の階級的正義性と確信性があるかぎり、動労の戦闘的伝統を継承し発展させる主人公はわれわれであるということ鮮明にしたのである。

②、革マルとそれに追いつく一部反動分子こそ、動労運動の破壊者であり、分裂主義者であること。そればかりか、動労を変質させ当局の先兵になり下ったということを、粉碎されたとはいえない自らの破壊「オルグ」の中でその実態をさらけ出したのである。自らの反階級的といえる数々の悪業に恐れおそえ、右翼反動・権力密通分子と罵声をあびせる「労運研」の人々をついてたてにしてしか千葉に入れない。そればかりか、青年部を偕称する革マル分子にいたっては、津田沼・幕張に一步も近づけず、終日、総武線・西船橋、西千葉にオロオロ、ウロウロしていたではないか。

▲3・25三里塚に総力決起し、30地本臨大の大成功からとれ▼

こうして、千葉地本の正義性と勝利性は増々確固不動のものになった。林委員長による、電話による二〇日九時四〇分「執行権停止」発効なる、千葉地本排除、動労分裂行為は、天人ともに許されざる行為である。3・25三里塚二期工事粉碎、30第三三三回臨時地本大会へ総力結集し、もつて千葉地本一四〇〇名組合員の揺ぎない団結力と闘いの正義性を満天下にさし示そう。

勝利の旗かかげ、「執行権停止」は千葉地本破壊攻撃を粉碎し、動労大改革運動をさらに押し進めん。

3.25二期工三里塚集安に総決起せよ。

成田運転区前10時30分集合(青年部は9時30分) ↓ 11時出発 ↓ 正午三里塚公園